

黒毛和種肥育牛の全肥育期間において

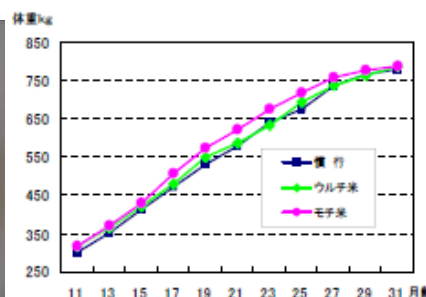
濃厚飼料の 25%を飼料用米（粉碎玄米）で代替

飼料用米の一層の生産拡大が今後も見込まれる中、肥育牛への利用にも大きな関心が寄せられています。そこで、飼料用米（ウルチ米およびモチ米の粉碎玄米）の黒毛和種去勢牛および黒毛和種雌牛への肥育全期間にわたる給与が肥育牛の発育や肉質に及ぼす影響を明らかにするため、場内試験では去勢牛を対象に濃厚飼料の 25%をウルチ米およびモチ米で代替し、また、農家試験では雌牛を対象に濃厚飼料の 15%をモチ米で代替して給与し、その影響について検討しました。

☆ 技術の概要

1. 飼料用米（ウルチ米およびモチ米）の玄米は、2mm メッシュで粉碎処理し、場内試験では去勢牛を対象にウルチ米およびモチ米を濃厚飼料の 25%代替して給与し（各試験区 4 頭を供試）、農家試験では雌牛を対象にモチ米を 15%代替して給与し（各試験区 5 頭を供試）、飼養試験を行いました。

2. 体重の推移、DG（1 日平均増体重）、濃厚飼料の摂取量および飼料要求率等の発育成績は、場内試験および農家試験とも一般濃厚飼料を給与した場合と同等の成績が得られました。



3. 枝肉成績では、場内試験および農家試験とも各評価項目において一般濃厚飼料給与の場合と差がなく、高品質な牛肉が生産できました。

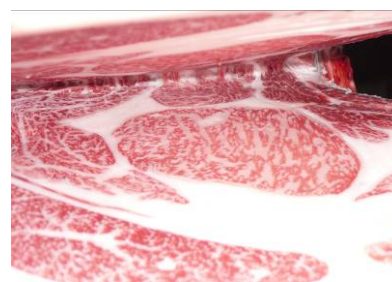


写真1 飼料用米給与の試験状況と枝肉断面

☆ 活用面での留意点

場内試験牛の肥育中期（肥育開始 9 ヶ月後の生後 20 ヶ月齢時）における血液性状には飼料用米給与による影響は見られませんが、ルーメン内容液は VFA 中のプロピオン酸比率が飼料用米給与によりやや高くなり、よりデンプン質飼料多給時の性状を示しました。詳細は、山形県農総研センター・畜産試験場・飼養管理科 三上豊治 (TEL: 0233-23-8818) にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)